熊本保健科学大学
週刊 NEWSLETTER
2023.6.16
第 198号
発行 入試・広報課

高校生と協力 高齢者の健康守る

阿蘇中央高で測定会「阿蘇プロジェクト」スタート

阿蘇市在住の高齢者を対象とした体力測定会が14日（水）、同市一の宮町の阿蘇中央高校であり、本学学生と同校生徒計96人が協力し、聞き取りによるデータ収集や、機器等を使った測定にあたりました。

２月に本学と阿蘇市、阿蘇中央高校の３者が締結した、健康寿命の延伸に向けた包括連携協定（阿蘇プロジェクト）の一環で、今回が初めての取り組みです。市の呼びかけに応じた62～80歳の男女計40人が集まりました。

測定要員として、本学からはリハビリテーション学科３専攻の２年次生42人、高校からは２年生54人が参加。学生、生徒の混成チームを編成し、校内の２つの体育館で運動機能、栄養、心理状態、社会参加の度合いなど約30項目にわたって測定しました。

学生と生徒たちは、５月31日（水）に本学で行われた予行演習で担当ごとに顔合わせをしていたこともあり、最初から打ち解けた様子。本番では、緊張の面持ちで高齢者に接する高校生を、学生たちが優しくカバーする姿があちこちで見られました。

気分の状態を問う「日本版SDS」を担当した川久保凱斗さん（言語聴覚学専攻）は、「笑顔と元気なあいさつを心がけたが、優しい人が多く、コミュニケーションがとりやすかった」。サポート役の徳丸新太さん（阿蘇中央高）は「警察官を目指す上で、こんな形で高齢者と接する経験は貴重です」と話していました。

プロジェクトリーダーの松原慶吾准教授（言語聴覚学専攻）によると、11月にも同一対象者を集めて測定会を開き、各項目での５カ月間の変化を検証するということです。（NL編集部）

運動機能や体組織の測定では、慣れない器具に戸惑うお年寄りに優しく寄り添い、わかりやすく説明をしていました（写真上、左）

簡単な器具を使った舌圧検査。真剣な表情で取り組む生徒たち

聞き取り調査で、訪れた住民に丁寧に応対する学生と生徒のコンビ

アカデミックスキル
支援センター

レポート

「週刊NEWSLETTER」に学生企画面

学生広報スタッフ新体制 動画配信も計画

「週刊NEWSLETTER」（NL）の一翼を担う学生広報スタッフによる本年度の初会合（編集会議）が12日（月）、キャンパステラスであり、NL紙面での定期的な「学生通信」（仮称）ページの展開、PR動画の制作・配信を柱とした新たな取り組みを確認しました。

学生広報スタッフは、昨年度アカデミックスキル支援センター内に設置されたNL支援部門です。これまで、岡村未来さん（リハビリテーション学科生活機能療法学専攻２年）と橋口璃央さん（同言語聴覚学専攻２年）の２人が主にコラム「学生の眼」を担当。時折、学内イベントを取材し記事にしてきました。本年度は、１年次生15人が新たに加入。一気にスタッフが増えたことで、組織的な取り組みが可能になりました。

第１回編集会議には広報スタッフ11人が出席。古閑陽一特命副学長と、渡辺雄一センター長が見守りました。スタッフを統括する同センターの渡邊淳子教授が ①NEWSLETTER編集、②PR動画の作成、③オリジナルグッズ開発、④高大連携の、将来にわたる４つの取り組みを提案し「皆さんのやる気で、どこの大学にも負けない活動をしましょう」などと激励。引き続き、岡村さんを部長、橋口さんを副部長に選んだ後、NL編集班と動画作成班に分かれ、当面の活動内容について協議しました。

NL編集班は、本学客員教授（広報アドバイザー）の渡邊元生・熊日編集専門委員が取材の基礎から原稿執筆、編集まで指導します。

NL編集班を希望した副島一流さんと下田埜乃さん（ともに看護学科１年）は「気の合う仲間たちと楽しくやれそう。取材も楽しみです」と声をそろえ、次々と企画を提案していました。一方、動画作成班の永田紗彩さん（医学検査学科１年）は「好きな広報活動を通じて大学に貢献できたらうれしい」と意欲を見せていました。

初代部長となった岡村さんは「いきなりスタッフが増えて不安でしたが、みんな元気いっぱいで今後が楽しみです」と目を細めていました。

（NL編集部）

新しいメンバーを迎え、新年度の取り組みについて話し合った学生広報スタッフ第１回編集会議

私の秘話ヒストリー

健康・スポーツ教育研究センター
中村 祐貴さん

ふたつ目の名前

皆さんは、名前が変わったことはありますか？　苗字が変わることは日常でよくありますし、結婚して苗字が変わるなど当たり前になっているので、そこまで気になりませんよね。

私は今ふたつ目の苗字ではなく、ふたつ目の名前で生きています。幼稚園に入園する際に、名前が変わりました。ですが、不思議なもので名前が変わったことで苦い記憶がないんです。

幼いころ体が非常に弱く入退院を繰り返す日々。小児喘息を患い、自宅の吸入器との付き合いは、友達と一緒にいた時間より長いかもしれません。

名前が変わって時間が経ち少しずつではありますが体調も良くなりました。なぜ名前が変わったのか、変えなくてはならなかったのかは未だにわかりません。これを機に両親に聞いてみようと思います！

「なかむらゆうき」という名前になれたことに感謝し、思いっきり挑戦していきます！

皆さん、アリーナに足を運びたくなってきたでしょう？　お待ちしております！

車いすテニス国際大会で女子日本代表に帯同

久保下 亮 准教授（リハビリテーション学科理学療法学専攻）

複雑、多岐な業務 準優勝で報われる

５月１～７日、ポルトガルで開催された車いすテニス競技の国別世界大会「The 2023 BNP Paribas World Team Cup ポルトガル大会」に、日本代表女子チームのトレーナーとして帯同してきました。

毎年１回開催されるこの大会は、パラリンピック出場条件の１つとされており、世界各国のトップ選手が出場する大会でもあります。私が帯同した日本代表女子チームは、準優勝と素晴らしい成績を収めてくれました。

今回は、各選手のウォーミングアップから試合・練習後のコンディショニングはもちろん、体調不良を訴える選手への対応など、多岐に渡る業務を行ってきました。選手から発出されるウォーミングアップ時のオーダーは、日々変化し複雑なものもあります。私はトレーナーとして、その一つ一つのオーダーに丁寧に対応し、試合に向けコンディションを高めていく過程を、選手とともに経験できたことに感謝しています。この経験を今後の教育にも繋げていけるよう努めていきたいと思います。

試合前のウォーミングアップに付き添う久保下准教授（右）

銀杏アラカルト

◆クラブ活動の活性化図る　2023年度のクラブ部長顧問連絡会議が５月31日（水）、50周年記念館であり、約30クラブの部長や顧問が出席しました。学生と教職員が円滑なコミュニケーションのもと、クラブ活動を活性化させるのが狙い。会議では、楢原真二副学長が「クラブ活動は本学の四綱領のうち『思慮』『仁愛』をはぐくむもの。しっかり取り組み、育てて欲しい」とあいさつ。引き続き、クラブ委員長を務める安田大典教授（リハビリテーション学科生活機能療法学専攻）が、会議の趣旨や新型コロナウイルス感染拡大防止のための行動基準、熱中症予防などについて注意を促した後、学務課職員がクラブ・サークルの予算申請や活動報告のやり方などを説明しました。また、学友会執行部のクラブ担当長は、各クラブ・サークル担当者に西里駅清掃への参加などを呼びかけました。（入試・広報課）

クラブ部長顧問連絡会議の会場

◆資格取得のすすめ　医学検査学科の山本隆敏講師＝**写真**＝による「スキルアップのための資格取得」講座が５日（月）3110M講義室であり、医学検査学科２年次生が在学中に取得できる資格について説明を受けました。共催した就職・実習支援課では、年次ごとにテーマを定め、就職ガイダンスを行っており、２年次生のテーマは「自己探求と社会人スキルの習得」です。山本講師は病院数の推移や病院とクリニックの違いなどについて説明し、前年度の進路決定状況を見ながら「希望する職種や地域を具体的にイメージしてほしい」と話しました。続いて在学中に取得できる資格として心電図検定やバイオ技術者、健康食品管理士など10を超える資格を紹介。「希望する職種、施設や企業について調べ、本学に求人がきているか、来ていないようなら施設や企業のホームページを見るようにしてください」と就職へ向けた意識づけの大切さを訴えました。（入試・広報課）